とびしま未来協議会通信

2014.3.25
第 9 号

とびしま未来協議会
Conference of the Tobishima island future
since 2011.5

TEL: 0234-26-2381

飛島総合情報サイトができました
http://tobishima.info/
facebook とびしま未来協議会

空からみた田代島

震災前の大泊集落

大泊集落には４ｍの津波が到来した

宮城県石巻市の離島、田代島。周囲 11.5km、最高標高 96.2ｍ、人口は約 60 人（最盛期の人口は千人以上）。近年は猫の多く棲む島としても知れている。東日本大震災では震度６弱を観測し、4〜6m の高さの津波により大きな被害を受けた。震災時は高台の旧小中学校やマンガアイランド（宿泊施設）が避難場所として機能した。

【報告】安心・安全と離島の暮らし

飛島の防災・減災・備蓄体制の見直しに向けて

—— 宮城県田代島（たしろじま）・網地島（あじしま）調査から

安心・安全の島暮らしを

今年五月末で、とびしま未来協議会設立からはや三周年を迎えます。二〇一四年度は、より生活に密着した事業を実施するために、離島振興計画作成時のアンケート調査や、座談会で最も関心の高かった「防災・減災・備蓄体制の見直し」を予定しています（酒田市による離島活性化交付金活用事業）。

これに先立ち、今年度は東北公益文科大学のとびしま未来研究会のメンバー（伊藤眞知子、澤邉みさ子、呉尚浩、岸本誠司、小関久恵）で、昨年八月には北海道奥尻島、今年二月には宮城県の田代島・網地島の被災地の調査に行ってきました（田代島・網地島には、渡部陽子さんと大学院生の三浦巧さんも参加）。『協議会通信』では今号と次号に分けてその報告をさせていただくことにします。

宮城県の離島　田代島・網地島から学ぶ

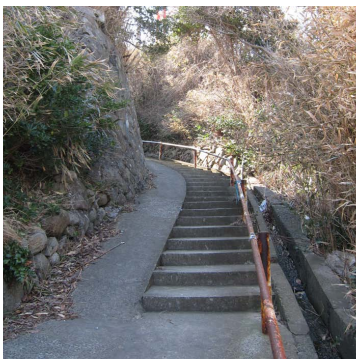
今号は二月二三日から二六日にかけて実施した田代島・網地島調査から報告しますが、二〇〇五年に「東北離島懇談会」として天保そば&ごどいも収穫感謝祭の際に、この二島より飛島に三人の代表者が来島したことを覚えている方もおられるかもしれません（また、田代島には東北公益文科大学の卒業生である北澤隆行さんが一人移住し漁業を営んでいます。漁師としても十分な収入を得ており、震災時も若く大きな力を発揮したと聞きました。大変頼もしい限りです）。

二〇一一年の東日本大震災による被災の状況は、田代島は人口八一名中、死者は〇人、不明者一人

石巻港 - 田代島 - 網地島を結ぶ定期船

田代島と網地島は石巻港から連絡船で 30-40 分ほどの距離

高台の宿泊施設マンガアイランド（田代島）



高台へつづく避難路（網地島）

鮑漁の開始時間を待つ漁船（網地島）

網地島長渡 (ふたわたし) 地区での聞き書き調査

唯一の病院は島の宝（網地島）

で岸壁沈下の被害。網地島は人口四二六人中、死者一人、不明者〇人で、四〇棟ほどの家屋が全壊という被害でした。両島は石巻から網地島ラインの船が出ていますが、地震時には船がちょうど走行中で被害を免れたために三月二四日から再開できたということです。その間は物資などの輸送は空輸。水は田代島が六月上旬、網地島が五月中旬に復旧とのことで時間がかかっています。その他、電気は三月下旬から四月中旬にかけて部分復旧、五月下旬に二四時間、七月下旬に海底ケーブルに切り替わり完全復旧。なお、島では仮設住宅は建設されていません。

今回の調査から、見えてきたことは、

◎とくに、網地島は震源地に最も近い島であるが、津波は島のため本土に比べるとかなり低く、聞き取りの範囲ではその高さは四〜六メートルという。ただし、震災前の予測は一メートルであり、行政側も住民もそれを超える十分な対策をしていなかった。行政の予測のみに頼らずに、多様な専門家や他地域での経験をもとに、あらゆる可能性を視野にいれることが重要。

◎両島とも島の中央部の高台に避難の拠点が存在（キャンプ場、ロッジ、自然体験施設、開発総合センター、医院など）することで、比較的安定した避難生活を送ることができた。

◎震災前に自主防災組織を作った集落、作らなかった集落があった。しかし自主防災組織は行政の薦めにより形式的に作ったものであったため、実際の有事には役にたたない面があり、震災時には現

実に即して再編成された。また作らなかった集落では、既存の自治会等の組織を活用して編成した。どちらにせよ、各集落の自治会運営の現状に合わせて日頃から防災体制をつくる必要性を感じた。

◎船の沖出しをするか否かは、危険性もあり賛否両論だった。網地島においては、網地地区では沖出しをせず、長渡地区では多く沖出しをした。

◎田代島では震災を機に島を離れる人がいた。また、この機に乗じて、持ち主が島外におり不在の空き屋を解体する家も多数あった。そのために移住希望者に家屋を提供できない状況もあるという。

◎被災後のボランティアの受け入れや募金の呼びかけ、安否確認のインターネット上の掲示板の仕組みなどを、日頃から有事にすぐに立ち上げられるようにしておくことの必要性。

そして、何よりも学ばされたのは、有事の際は一人ひとりの意識が最も重要なことです。防災体制の充実も大変重要ですが、それ以上に、もしもの際にどのような行動をとるべきかを日頃から備えていくことが大切だと改めて痛感しています。（次号につづく）

呉 尚浩（とびしま未来協議会）

【報告】アイランダー２０１３

Let's 島活！見つけよう私の島

飛島のブースは昨年よりもスペースが広くなり、島の様子を伝えるパネル展示の他、お土産品の販売やしまシネマ（飛島の漁業や文化に関する映像上映）を行い、来場者に飛島の魅力を伝えることができました。

十一月二十二～二十四日に東京の池袋サンシャインシティ文化会館にて開催された「しまづくりサミット」と「アイランダー２０１３」に参加しました。

一日目、「交流による人材育成と島づくり」をテーマにしまづくりサミットが行われました。東京都新島村・山口県周南町・新潟県粟島浦村・愛媛県松山市の四団体の事例報告があり、その後、交流促進・人材育成・地域教育・一部離島の四グループに分かれて、討議を行いました。参加者からは、それぞれの島が抱える問題や、離島の持っている可能性について、熱い意見が交わされました。

島民からは、進藤雪夫さんが参加、飛島中学校同窓会からは澤口啓さんが応援に駆け付けてくださいました。ブースは熱心に質問しながら飛島の話を聞いてくれる方、漁の映像を面白そうに眺める方、夏に飛島に観光で訪れた方で溢れました。

また、夜には交流会があり、様々な島の人とお互いの島についての情報交換を行い、縁の拡がりを実感。アイランダーのような島の人同士が触れ合う機会の大切さを感じました。他の離島の取り組みを参考にしながら、このような機会を大切に、今後の活動に活かしていきたいと思います。

渡部 陽子（とびしま未来協議会）

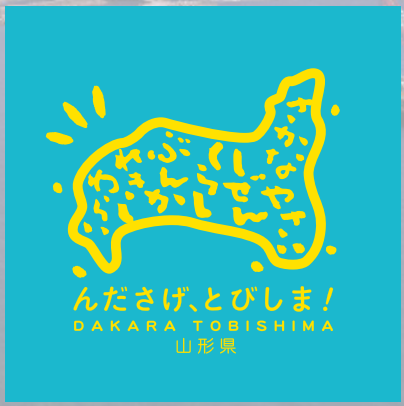
【アイランダー】
「島で生活する人」「島を愛する人」「島の発展を応援する人」という意味合いのもとに、全国の島が一体となって島のすばらしさをアピールする交流イベント。2013 年は、約1万3千人の来場来場者があり、大盛況のなか終了した。2013 年のテーマは「Let's 島活！見つけよう私の島」。

飛島のＰＲロゴマークが完成しました！

島のあたりまえが
そのまま島のブランドです。
島のあたりまえに
私たちは誇りを持っています。
さかな、やさい、しぜん、くらし、
ぶんか、れきし、わらい・・・
こんなに良いところがたくさん。
だから、とびしま。
んださげ、とびしま。

M 10%　Y 100%
DIC2538

C 70%　Y 20%
DIC99



「んださげ、とびしま！（だから、とびしま！）」のキャッチフレーズを元にロゴマークを作成しました。飛島の海をイメージした青色の中には、トビシマカンゾウをイメージした黄色を使用して飛島のかたちが描かれています。そして、島のかたちの中には島の代表的な良いところが書いてあります。

今回作成したロゴマークは、島のＰＲの際に使用することを想定して作成されています。ロゴマークがＰＲの場で使用される際には、そこに必ず飛島の素材（人や物など）が存在します。島の素材を目立たせるように、ロゴマークはＰＲする場の背景やコンセプトを生み出すように、受動的なデザインで作成されています。

■ロゴのバリエーション

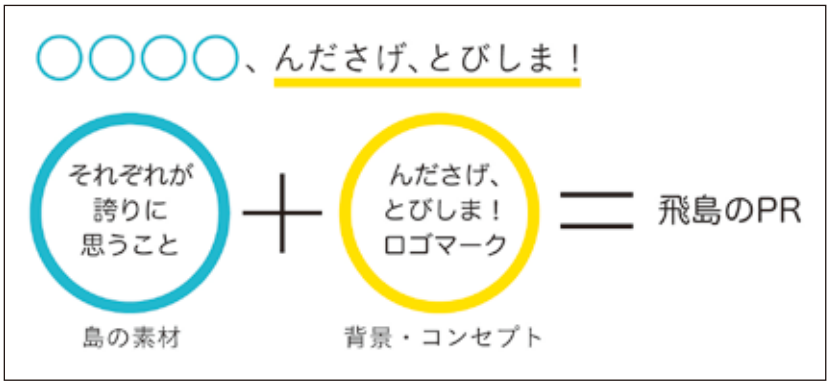
基本形（四角型）

基本形（丸型）

背景なし

背景なし（横型）

■ロゴの考え方



ロゴマークはＰＲする場の背景やコンセプトとなる

■ロゴの使用例

横断幕のデザイン

ロゴマークを活用したＰＲ用品

このロゴマークは NPO 法人パートナーシップオフィスに委託された「飛島ブランド確立支援事業」（山形県）の一環として作成されました。
（記事作成：松本友哉）

編集・レイアウト：岸本 誠司